

創造的復興をめざして



兵庫県知事

貝原俊氏

阪神・淡路大震災から2年。その復旧・復興の足跡を振り返るとき、感慨ひとしおのものを覚えます。

このたびの震災は、高齢化が進む大都市を直撃した未曾有の大災害であっただけに、その復興への道すじは厳しいものがありますが、被災者をはじめ関係者の方々と力をあわせて懸命の努力を続けているところです。お陰をもちまして、被災地では本格的な復興への槌音が力強く響きわたり、フェニックスのごとく蘇ろうとしています。ここに改めて、温かいご支援をいただいた国内外の皆様方に心から感謝申し上げます。

阪神・淡路地域は、神戸港の開港以来、国際交流の窓口として発展し、日本の近代化の一翼を担ってきました。今回の震災復興にあっても、単に震災前の状態に戻すだけでなく、環境や健康、都市問題など地球規模で解決が迫られている諸課題への積極的な貢献を果たしながら、“共に生きる心”に支えられた地域文化を創造し、人・モノ・情報が豊かに交流する舞台づくりを進めていくことが大切であると考えています。

アジア・太平洋の時代といわれる新世紀の幕開けを間近に控えたいま、兵庫県では、関西国際空港の開港に続き、神戸港も最新鋭の港湾として生まれ変わりつつあり、世界一の吊り橋・明石海峡大橋や山陽自動車道などの新たな国土幹線軸の整備も進み、我が国でも有数の陸・海・空の交通の結節点が形成されようとしています。また、WHO神戸センターや国際エメックスセンター、世界最大級の大型放射光施設など国際的な研究機関の整備も着々と進展しているところです。

こうした基盤と地域特性を生かし、21世紀の成熟社会にふさわしい創造的復興を成し遂げ、人と自然、人と人、人と社会が豊かに調和し共生する“こころ豊かな兵庫”を実現してまいる決意です。今後とも、皆様のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成9年1月